

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病害虫発生予察 特殊報 第2号

- 1 病害虫名 クロテンコナカイガラムシ (*Phenacoccus solenopsis* Tinsley)
- 2 発生作物 ナス
- 3 発生地域 大阪府
- 4 寄生作物 広食性で施設栽培のナス、トマト、ミニトマトの他、オクラ、キクなど多くの野菜類・花き類
- 5 発生の状況
 - (1) 令和元年8月、大阪府内の施設栽培ナスほ場において、葉にすす病が発生し、コナカイガラムシ類の寄生が確認された。
 - (2) このコナカイガラムシについて、農林水産省神戸植物防疫所に診断依頼したところ、クロテンコナカイガラムシ (*Phenacoccus solenopsis* Tinsley) と同定された。
 - (3) 本種の大阪府での発生確認は初めてである。
 - (4) 本種は海外では、中国、台湾、タイ、ベトナム、インドネシア、カンボジア等に分布している。
 - (5) 本種は日本では、沖縄県、佐賀県、福岡県、愛知県、山口県、高知県、鹿児島県で発生が確認されている。
- 6 形態と被害
 - (1) 雌成虫は体長3~5mmの楕円形(わらじ型)で翅を欠く。体表は白色粉状のロウ物質で覆われている(図1)。ロウ物質は亜中央部で薄くなるため、2齢幼虫以降は2対の黒斑があるように見える(図2)。雄成虫は一对の翅を持つ。
 - (2) 雌成虫はワタ状のロウ質物の卵のう内に平均で350個程度産卵する。繁殖様式は有性生殖と単為生殖の両方が知られている。本種の単為生殖個体群における1世代の発育期間は平均70日程度である。
 - (3) 生長点付近の茎葉に寄生し、分泌した甘露からすす病(図2)を生じる。
- 7 防除方法
 - (1) 茎葉等に寄生する本種と本種が分泌する甘露によるすす病(図2)に注意し、早期発見に努める。
 - (2) 発生ほ場では、寄生部位を除去し、ほ場外に持ち出して土中に埋めるなどして適切に処分する。
 - (3) 令和元年8月現在、本種に対する登録農薬はない。本種が寄生しているナスの栽培終了時には、近隣の寄主作物へ本種が移動しないように、残さを速やかに処分する。
 - (4) 雑草にも生息するため、ほ場内及び周辺の除草対策を徹底する。



図1 雌成虫



図2 幼虫とすす病